

# 3331 ART FAIR オーディエンス・プライズ レコメンドアーティスト結果発表

3331 ART FAIR  
Organized by 3331 Arts Chiyoda

## ■オーディエンス・プライズ

3331 ART FAIR 2020 に来場頂いたお客様を対象に、オーディエンス・プライズ（来場者投票）を実施しました。  
上位 3 名の結果を発表します。（順不同）



平野 真美／Mami Hirano



石原 英介／Eisuke Ishihara



ミリン チュウ／Mirim Chu

## ■3331 ART FAIR レコメンド・アーティスト

各プライズの結果を踏まえ、アーツ千代田 3331 による厳正なる検討の結果、2名の若手作家が 3331 ART FAIR レコメンド・アーティストに選出されました。選ばれたアーティストには、3331 Gallery (アーツ千代田 3331 1F 108) での個展開催の機会が授与されます。会期等の詳細が決まり次第、アーツ千代田 3331 のウェブサイト等でご案内して参ります。



展示風景  
「変身物語 METAMORPHOSES」シリーズ  
レントゲンフィルム、シャウカスティン、ガラスほか（技法・素材は作品によって異なる）  
2020年

平野 真美 / Mami Hirano

[ 作家の言葉 ]  
「亡くなった愛犬や幼少の頃のパートナーなど、「もういないもの」としての非実在生物の生体構築、生命の保存あるいは蘇生に関する作品制作を行う。近年制作を継続している『蘇生するユニコーン』は、非実在の生物であるユニコーンを制作によって実在させ蘇生する試みであり、その過程を段階的に発表・アーカイブ化する個人のプロジェクトである。ユニコーンもまた私が失ったものの象徴であり、その骨格・内臓・筋肉・皮膚と制作し、制作した肺に空気を、心臓に血液を送り蘇生を目指す。」

※本フェアでは、作家の亡くなった愛犬の遺骨を作品として蘇生させるシリーズ「変身物語 METAMORPHOSES」を発表。



展示風景  
「石貨の島と我が彫刻」  
バラオの石灰岩、ストーリーボード、ビルマネム、キューバンマホガニー、映像、ほか  
2020年

石黒 健一 / Kenichi Ishiguro

[ 作家の言葉 ]  
「主に鉱物などの時代や地域を象徴する物質を扱い、彫刻の可能性を追求している。ものに付随する「価値」の不確定さを主題としながら、それらを異なる文化や歴史を接続することにより、さまざまな関係性を導き出す試みを行っている。近年は彫刻と映像などのさまざまなメディアを組み合わせた作品を展開している。」

※本フェアでは「石自体は動かない代わりに所有者が移り変わっていくヤップ島の石貨文化と、人から人へ売買されていく芸術作品のシステムを、わらしへ長者のような語り口と共に提示」したインスタレーション作品を発表。  
(一部、推薦者の解説文を抜粋)